

金森幸介「50+1」 / April 25-26, 2009 / La Cana, Tokyo

DISC ONE

- 01 夕陽よ急げ
- 02 なにもない俺だけど
- 03 >厩気楼のように
- 04 >だいじょうぶ
- 05 通り雨
- 06 >Woo Baby
- 07 Same Old Songs
- 08 愛さずにいられない
- 09 Circus Town
- 10 >P.S. Peace and Love
- 11 >君の心の草原を渡る緑の風のように
- 12 冬真最中

DISC TWO

- 01 悲しい日々
- 02 Birthday Song
- 03 地平線
- 04 さくら
- 05 君を愛していいかい
- 06 Oh My Endless Summer
- 07 忘れものを取りに行こう
- 08 摩天楼Blues
- 09 遠くはなれて子守唄
- 10 もう一人の僕に

DISC THREE

- 01 箱舟は去って
- 02 もう引き返せない
- 03 24時のLullaby
- 04 Soul Mate
- 05 Help Me
- 06 何処へ
- 07 いいこと
- 08 Hey, Girl
- 09 昨日今日明日
- 10 >No No Train

DISC FOUR

- 01 Across the Border Line
- 02 Broken Heart
- 03 週末
- 04 Happyendを探して
- 05 >たとえば
- 06 気をつけろ
- 07 ビート・タウンゼンド
- 08 Life Goes On
- 09 水の重さ

DISC FIVE

- 01 ちがう言葉
- 02 太陽が折り返し地点
- 03 夢の中
- 04 Paranoia Blues
- 05 Lullaby
- 06 ふたりは
- 07 Sha-na-na
- 08 >美しい絵を描く人達がいる
- 09 >静かな音楽になった
- 10 Rock and Roll Gypsy, Part 2

produced : KOSUKE KANAMORI / KAZUYA KITAMURA / YUKO TOMITA

vocals and guitar : KOSUKE KANAMORI

all songs written by KOSUKE KANAMORI except Across the Boder Line by RY COODER

/ JOHN HIATT / JIM DICKINSON, ふたりは by KOSUKE

KANAMORI / JUNJI ARIYAMA

live recorded at LA CANA / shimokitazawa, tokyo april 25-26 2009

live sound : ATUSHI KANO

recorded and edit : KAZUYA KITAMURA

mixed : SHIGEO MIHARA

cover and inner woodcut : EIJIRO MORI

visual design : YUKO TOMITA

thanks : GRATEFUL, YOSHIO TAKAHASHI

「オレが死んで、追悼ライブを開くという動きがあったら、絶対に止めさせるように。それがオレの遺言！」

金森幸介はよくそう話している。彼自身の死期は確実に近づいてはいるものの、確定された日時やそのことを意識させる重い病があるわけではない。ただ彼はそういったもの、死者ではなく残された者のエゴにたいして、ときどき、もの凄ひ嫌悪感を示す。

彼がそのことを口にするたびにわたしは「またはじまった」と思い「ハイ、ハイ」と相打ちを打つと「ハイは一回でいい！」と必ずキレるので、「追悼ライブを開く動きがあったら、絶対に止めさせる。で、わたしが主催する。『金森幸介・追悼ライブ』で観客動員が見込めるのなら」といい返すようにしている。

2 日間で 50 曲ともう 1 曲を金森幸介が演奏するライブを開くというアイデアが浮かんだのは、2008 年 11 月 14 日、ラ・カーニヤ(東京・下北沢) でのライブ終了後のこと。その夜の彼の演奏を聴いて、そう考えたのではないし、もちろん、観客が多すぎて 1 日だけではもったいないと思ったわけでもない。以前から金森幸介に彼が 2001 年に発表した 5 枚組 CD 『50 / 50』を再発売したいと申し出ていたが本人にその意思がなかったので、ライブでそれを再現すればいいと考えた。それに、わたし自身が年齢を意識するようになって、9 歳も年上の金森幸介も若くはないことや、数年前、大阪・梅田の喫茶店を出て「それじゃあ」と手を振った彼の肩が細く見えたとの思い出したからだ。彼が愛用するギターも成熟期はすでに通り過ぎていた。生前追悼ライブ? 60 歳で 60 曲? なんていうのも(送り手側の) エゴを感じないわけではないので、50 曲と 1 曲ぐらいは新曲を期待して 2 日間のライブを敢行することにした。

当初は金森幸介もこの企画ライブには半信半疑で「ホンマにやるんかあ〜? 」と話していたが、2009 年を迎えるころには、新たな 1 曲や演奏予定曲などが金森幸介のなかで決まりはじめていた。同時にライブ「50 / 50」という案は消え、「50 + 1」というタイトルに変更され、内容も現在の金森幸介の新しい「50」となっていった。アルバム『50 / 50』に収録されている作品には今の彼自身がもううたいたくないものもあり、新しい曲「ビート・タウンゼンド」や「たとえば」、「忘れものを取りに行こう」などを収録したいという意味が勝っていた。

何かをやると決めれば几帳面な性格の金森幸介は、収録曲とその演奏順をかなり綿密に絞り込む。ライブの途中で話していたが、演奏曲を 60 曲ほどに絞り、そこから 10 曲をそのときの気分で削るということにしておいたようだ。CD5 枚組となった本作品も彼が決定した演奏順は崩していない。ただ 1 日 3 部構成 (25 日は 25 曲、26 日は 26 曲を演奏) であったライブでは、下記のような順で行われていた。

4 月 25 日

(1st set)

01 夕陽よ急げ

02 なにもない俺だけど

03 厩気楼のように

04 だいじょうぶ

05 通り雨

06 Woo Baby

07 Same Old Songs

08 愛さずにいられない

(2nd set)

01 Circus Town

02 P.S. Peace and Love

03 君の心の草原を渡る緑の風のように

04 冬真最中

05 悲しい日々

06 Birthday Song

07 地平線

08 さくら

(3rd set)

01 君を愛していいかい

02 Oh My Endless Summer

03 忘れものを取りに行こう

04 摩天楼 Blues

05 遠くはなれて子守唄

06 もう一人の僕に

07 箱舟は去って

08 もう引き返せない

09 24 時の Lullaby

4 月 26 日

(1st set)

01 Soul Mate

02 Help Me

03 何処へ

04 いいこと

05 Hey, Girl

06 昨日今日明日

07 No No Train

08 Across the Border Line

(2nd set)

01 Broken Heart

02 週末

03 Happyend を探して

04 たとえば

05 気をつける

